

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 平林 慧遠さん(住田町)

取材担当 大船渡農業改良普及センター 平田 将大

平成 29 年度に就農した住田町の平林慧遠さん(とうもろこし・110a、にんにく 12a 他)を紹介し
ます。

平林さんは、就農前に岩手県職員として林業関連の業務に従事しており、田舎の「なりわい」
である一次産業に興味を持つようになりました。その頃、住田町で「遊休農地の活性化」に取組
む地域おこし協力隊の募集があったことから、就農を視野に活動を開始し、任期中である平成
29 年から農産物の生産・販売をスタートさせました。

令和2年度に経営発展のため、本事業のうち「新規就農スタートアップ支援事業」を活用し、ト
ラクターとにんにく温風乾燥機を導入しました。これらの機械を導入することにより、規模拡大が
可能になったほか、にんにくの出荷前の乾燥時間を短縮することで早期出荷が実現できていま
す。

平林さんは、「農業は地域資源から「なりわい」を生み出すことができ、その技術者(＝農業者)
として生きがいを見つけられる」と農業の魅力を語っています。

また、「技術の普及に力を入れていきたい」とも話しており、経営体の枠を越えた農業者間の
連携により、技術や経営を継承していくことで田舎の「なりわい」である農業を維持していき
たいと意気込んでいます。



平林慧遠さん



事業で導入したトラクターを乗りこなす平林さん



にんにく温風乾燥機